

プリマール。

Ⓟ Ⓡ Ⓜ ⓐ Ⓡ Ⓡ

1



魔理沙が幻想郷からいなくなったらの話。

私と霖之助さんはどういふ関係にあるのだろう。



プライマル。

雪の降る
冬らしい寒い午後

こんな日は
客が来ない

もったも

元々
流行ってるわけでも
ないので
当たり前と言えば
当たり前だけれど

彼女が
いなくなってから

今はもう
騒がしかった
あの少女達も
めったに顔を
出さなくなったし

もうっ
イヤになっちゃう

急に振り出して
来るんだから……

ただ一人を
のぞいて――

博麗 霊夢

ん

いい湯で
気持ちよかったわ

ありがとう霖之助さん♪

お湯加減は
どうだったかい？

霖之助さんだって
私みたいな美女が
来てくれるなんて
嬉しいでしょう？

おいおい...

だって、ここのお茶
おいしいんだもの...

まったく...

君も物好きだね
こんな寒い日に
やって来なくても

のどいとも良かったのに...

この子だけは
今も繁栄に
僕の元を
訪ねに来てくれる

もっともー

えー、

ケチ.....

客と呼べないのは
今も昔も
変わらないが...

だが断る

色々買って
いくわねー

ーってわけで

—けれど

この子はこの子なりに
僕を心配してくれてい
るのかもしれない・・・
—それとも
この子もまた『寂しい』と
僕にすがって
くれているのだろうか？



ねえ
さっきから
何読んでるの？

えい

ああ・・・
大人向けの本さ

え

何ソレ

Hな本？



ははっ

そうだね
君にはちょっと
難しいかも
しれないね

外見じゃなくて
中身の問題だよ

・・・それって
もしかしなくても
私の事
バカにしてる？

あはは
そうかもしれないね

むう・・・

でも
本当の事だろう？



何ソレ・・・

私だってもう
色々子供じゃ
ないんだけどなあ

4



困ったなあ...

だけどね霊夢?



.....

はあ



ふんっ...

私だって別に
手舞子野さんには
ほめこもらうわよん
ブツブツ



君はまだまだ
子供だけど...

僕はとっても綺麗になつたと思うよ

!

り、霖之助さんに
言われても
あんまり嬉しくない……

っ

ぶっ

君の
そういう所は
可愛いと
思うけどね

む……

霖之助さんって
昔から
ちよっと
意地悪よね

それより
随分片付いたのね
綺麗になってて
ビックリしたわ

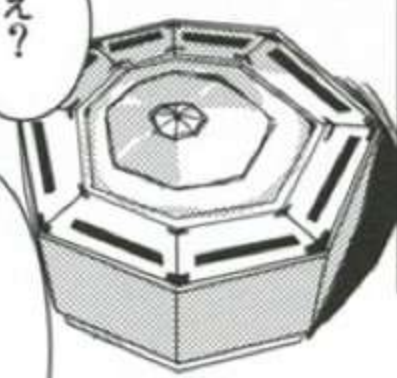
ああ いつまでも
散らかったままじゃ
アレだからね

そうねー 私も本当に
Hな本とか出てきたら
どうしようかと
思っちゃった

おいおい
あんまり漁ら
ないでくれよ？



え？



八卦炉

アレ

まだ持ってたんだ……

あ、ああ……

それは色々
便利だからね
たまに使うんだ

彼女の
とても大切な物

ふーん

そうなんだ……

きつとウソ——

彼は彼女のことに
少しでも触れると
すぐあんな顔をする

きっとあの八卦炉も
彼女との思い出を
忘れたくないから
だろう。。

でも

私も彼を
責めることはできない

きっと私も今
彼と同じような
顔をしているから

けれど・
少し悔しいので
ちょっと
意地悪な質問をしてみる

ねえ 霖之助さん

なんだい？

私のこと……

好き？

……ああ

彼の少し困った顔

好きだよ

そう……

ありがとう

それがとても
可笑しくて――

彼が子供のよう
に見えて

私の心を
切なくする……

ねえ、霖之助さん……

スル……

愛が……

誘うのはいつも私

欲しいです……





霊夢……

こんなことでしか
彼を繋ぎとめて
おけない私は
哀れだろうか



ちやふふ

ふは

ちやふふ

それとも卑怯？

でもそれでもいい

ちやふふ

彼が少しでも
私のことだけを
見てくれるのならば……

ちやふふ

今日は
どうしたんだい？
何かあったのかい？

ううん
別に何も無いけど……





今は...

へえ...
珍しいことも
あるもんだね

そういう気分なの

あっ...

って
ちょっと待ってっ
何するのっ!?



や、
やだあ...

え!?

ちよっとお

んっ



あ、あんまり見ないで
霖之助さん...

恥ずかしい...

「はあっ」



だ、ダメよ
そんなとこ

60。

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

あんっ

だ
だ
だ

ああっ

しゅっ
しゅっ
しゅっ

ひっ

はあ

・・・挿れるよ霊夢？

はあ

うん...

あっ

んっ...

しゅっ
しゅっ
しゅっ

彼の
優しい言葉

大丈夫かい...？

うん...

まだ慣れないけど
大丈夫

それが嬉しくて
切なくて

来て...
霖之助さん

霊夢...



あああああ——っ

ゴッ

ビュッ

ゴッ



バカ……



ん……

りんのすけさん……

しゅっ……

しゅっ



バカ。



私はずっと考える



彼女が私の心を
知ってしまうと
どう思うだろうか？



雪……

止まないな……

『バカだな』
って笑ってくれるだろうか？

それとも
顔を真っ赤にして
怒ってくるだろうか？



何もかも
彼女に勝っていた
つもりだったけれど……

とうとうこれだけは
勝てなかったみたいだ



きっと彼も彼女も
私にそれでも
優しくして
くれるだろう

心から
仲良くだって
してくれる



けれど
私には彼女という
存在が大きすぎて



私に写る
貴方はいつも素敵なお顔で

いつも『生懸命で可愛くて

私の心に影を作る

——ああ
魔理沙



私は貴方が大好きで

大嫌いだわ

【あとかき】
どうも双です。
久々にあとかきする時間があります。
計画的って素晴らしいっ！
ネチョ本って楽しいですね。
霊夢ってなんだか虐めたくありませんか
ならないですか、そうですか。
×切前の修羅場になると
近くの自販機でBOSSを端から端まで全部買います。
自販機に1500円程突っ込むちょっとした冒険。
コンビニで2000円使ってフルコース作るとか
オロ○ミンCを飲めるだけ飲むとか
死ぬまでにやってみたくありませんか
ないですか、そうですか。
ああ、今日もBOSSがうまいなあ。



<http://www12.ocn.ne.jp/~sekitou/>